

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	個別介護計画に関して、本人の課題と思われることをすべて挙げて、それに対して目標や具体的なケア内容をプランに載せているので、焦点がぼやけて普通のケアに反映しにくくなっている。また、計画に沿ってケアを行うことができたかを評価する仕組みが確立していない。	個別介護計画の課題も優先順位をつけ、その方にとって今、優先的に取り組む課題・目標を職員全員が共有し、課題解決に向けての具体的なケアを統一して行うことができる。またケア実践により、入居者様の身体面・精神面にどのような変化・改善を生むことができたかを客観的に判断できる仕組みができる。	個別介護計画の課題に優先順位を付け、計画から外せるものはなるべく外していく。その月の優先解決課題を明示し、それを職員全員が認識しケアに取り組む。一定期間で、取り組みに対して、どれだけの変化を生むことができたかを5段階で評価。とにかく介護計画をもとにケアが行われていることをスタッフ全員が再認識し、焦点化されたケア目標をやりきることで、入居者様の状態がどれだけ改善できたかをスタッフ一人一人が体感として知ることが重要。	6ヶ月
2	23	生活歴等を記したフェイスシートが整備できていない入居者様がいる。その人らしい暮らしを実現するために、過去の情報は非常に重要で、そこからケアのヒントが生まれることが多いため、整備を進めたい。	フェイスシートの中身を充実させるにあたって、ご本人やご家族と対話する機会も増え、ともにケアを作り上げる視点の構築につなげる。そこから得られた情報をケアに活かし、利用者本位のサービスを提供することの重要性のスタッフ理解が進む。	現在、明確なフェイスシートがない方は早急に、ご本人やご家族から聞き取りを行い、整備する。フェイスシートがある方も中身をより充実させ、ケアに活かせるものになるように進める。また日々のケアから収集できた情報も積極的にフェイスシートに取り入れていく。	6ヶ月
3	2・4	コロナ禍になり、運営推進会議がすべて書面開催になっており、地域と交流する機会が減少している。書面でホームの状況を2か月に1回発信しているが、それに対しての意見や質問等はほとんど見られず、双方向のやり取りになっていない。	びろうじゅおおよどの状況を地域に逐一、情報発信し、地域からそれに対して積極的な意見や質問等が返される仕組みができる。その為の情報発信の仕方、対象者、得られた情報の活かし方等への工夫が進む。	書面での報告は、文書によるものだけでなく、写真やイラスト等も活用し、見る側がイメージしやすい情報発信の工夫をする。双方向のやり取りが行えるよう地域の状況を質問したり、びろうじゅの施設が地域の一つの社会資源の一つとして、果たせる役割を積極的に投げかけていくなどのアプローチが必要。	6ヶ月
4	7・8	外部研修にほとんど参加できていない。内部研修は、会議時に行えるようになったが、多くのテーマを題材に行えていない。	内部研修は、フロア会議時やカンファレンス時に短時間でも良いので、様々なテーマで行うことができる。外部研修は、eラーニング等、職員個々が自分のペースで学習のできる仕組みができる。	まずはフロア会議とカンファレンスを隔月開催する。そこでどのようなミニ研修を行いたいかをスタッフに意見も求め、現場に即した多様なテーマで学習を行う。自己学習に関しては、教材を活用。定期的に進捗確認をし、底上げを図る。	6ヶ月
5	34・35	急変時や事故発生時の対応、災害時の対応等、マニュアル等は整備できていても、実際にどれだけ最善の行動をとることができるかは未知数で、より最善の行動につなげるために、日ごろからのシュミレーションの機会をもっと増やさないといけない。	実際にシュミレーションをして、職員全員が適切な対応を行えるよう日ごろから備えができています。	救命救急講習は、先輩職員が新人職員に教える形でシュミレーションの機会を増やしていく。急変時対応や事故発生時の対応は今まで実際に起こった事例を振り返り、よりよく動ける方法をシュミレーションしておく。災害時対策は、マニュアルに沿って、年に2回は日中と夜間に分けてシュミレーションを行う。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。